

## モントリオールから熊本までの動き—女性とスポーツプログレッシブレポート 2002-2006

### 国際女性スポーツワーキンググループ

#### 要旨

##### **IWG とは？**

国際女性スポーツワーキンググループ (IWG) は 1994 年イギリス、ブライトンで開催された第 1 回世界女性スポーツ会議の際に設立されました。IWG は自発的なグループ組織であり、世界中からのキーとなる非営利組織の代表者、各地の代表者、政府関係者などでメンバーが構成されています。IWG は世界中で少女及び女性のスポーツと身体活動における国際的開発の促進と手助けを行い、政府組織及び非政府組織が関わる少女と女性のスポーツを通じた開発の促進者としての働きを担っています。

IWG の実際的な目標はブライトン宣言からとられたもので“女性がスポーツのすべての分野に最大限に関わることを可能にし、それを評価するスポーツ文化を築くこと”です。この目標を達成するための歩みは、実際の行動、教訓、格差など IWG の各世界女性スポーツ会議の包括的なレポートに記録されます。2002 年から 2006 年までの女性とスポーツの動き、すなわちモントリオールから熊本までは第 3 回 IWG 会議以降の進展をたどります。それは、1994 年から 1998 年、1998 年から 2002 年という前々回、及びそのさらに前の 2 つのレポートに明記され確立されたスポーツにおける少女と女性の前進の上に打ち立てられていったものであります。

##### **2002 年—2006 年のプログレスレポートの編集**

プログレスレポートに載る情報はウェブサイト、ニュースレター、国際スポーツ組織、地域のスポーツ組織、国内のスポーツ組織からのレポート、アフリカ、アジア、中東、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア地区からのレポート、国際連盟、選抜された非政府組織からのレポート、インターネット検索、スポーツ界の女性のネットワーク、そしてロコミによる情報など様々な情報源を用いて編集されます。

こういった視野に立つレポートにおいて、格差や漏れは不可避です。その上、私たちは経験を分かち合ってください個々の方やグループに頼っているわけですから、多くの場合、情報の正確さを検証することは出来ません。過去に出されたレポートではさほど重要ではない内容や要約は別として、著者がレポートを提示された通りに再版したこともあります。

##### **2002 年—2006 年のプログレスレポートの要旨**

プログレスレポートは 4 つの章と 10 の付録で構成されます。

第 1 章では 1994 年以降の IWG の成果を振り返り、各世界会議—1994 年のブライトン会議、1998 年のナミビア会議、そして 2002 年のカナダ、モントリオール会議—の間の進展に焦点を当てます。

第 2 章では 2006 年 3 月現在で IWG 事務局が受け取ったレポートに基づいて関連のある行動と進展を振り返ります。特にそれはモントリオールにおける代表からの、第 4 回世界会議へのレポートに対する、モントリオール・コミュニケの 10 の目標の到達度に関する要望にこたえるものであります。

第3章では2002年から2006年間の世界中からのプロGRESSレポートを紹介し、3つの分野に分類します。1番目は世界中の国際組織、地域組織、国内組織からのレポートをリストアップします。2番目は地域によるレポートを紹介します。3番目は国際連盟の活動に焦点を当てます。

第4章ではプロGRESSレポートの第2、3章で明らかになった結果及び決定的な成功因子について述べます。

### **Conclusions and Critical Success Factors 結果及び決定的成功因子**

全世界にはないが、認知が広まってきている事柄は、スポーツは

- 公平に且つ公正に実践されるならば社会を豊かにし、国家間の友好を図ります
- 個人に対し、自己認識、自己表現、及び達成感を構築し、個人的功績及び技術の習得を体験し、社会での交流、健康、幸福を享受する機会をもたらします
- 社会におけるかかわり、協調、責任感を高め、コミュニティの発展に貢献します
- それぞれの国家の文化の肝要な側面です

しかしながら、女性と少女は世界人口の半数以上を占めるにもかかわらず、スポーツ界で占める割合は、国家間で違いがあるとは言えるもののすべての場合、男性と少年が占める割合より小さいのです。

モントリオール・コミュニケ以降この不均衡を是正するために多くの事業や首唱が企画されてまいりました。これらの中のもっとも有望であるものから決定的な成功因子が現れました。それらには以下のようなものが含まれます：

局所的(地域的の方がいいでしょうか?)には、

- 人気選手が少女と女性のスポーツ参加に関わる
- 主導世代が少女が競技をする基本権利を認める
- 様々なレベルに参加する機会
- 模範の出現
- 次世代が、スポーツに参加し、スポーツを主導する機会が少女と女性にとって基本的権利であるということを受け入れ、完全に享受する

国際的には

- 地球規模の女性とスポーツの動きに対する強力な戦略的方向性
- オリンピック、国連機関、政府、国際スポーツ機構、及びその他のかかわりのあるパートナー間の協力
- 進展をモニターし、動きの中の力強いところと弱点を査定する継続性のある的確な歩み
- 絶え間なく変わり続ける地球環境の中での女性とスポーツの問題を解決するための、指導者間の構造と政策及び実践を変えることに対する積極性

もっとも成功したプロジェクトと主導権からすると、真に効果的な変化は草の根から生まれでなければならないことも明白なことです。競技、スポーツ及び身体活動が世界のコミュニティの社会構造に深くしみこんでいったときにのみ必要な変化が可能になり、それが持続するようになります。さらに持続する変化は、女性が権限を持ち、文化と後に続く世代への期待にこの権限を深くしみこませる責任を担うべきでありということもまた認識されています

IWG プロGRESSレポートのコピーは、IWG のウェブサイトをご参照ください。  
<http://www.iwg-gti.org/>